

審査の結果の要旨

氏名 杉山 雄大

本研究は、高 LDL-C 血症の第一選択薬である スタチン(HMG-CoA 還元酵素阻害薬)の使用が大幅に拡大した最近十数年の間に、米国成人におけるカロリー及び脂肪摂取の推移がスタチン服用者と非服用者の間で異なるかどうかを調べるために、米国の公開データである **National Health and Nutrition Examination Survey 1999-2010** を用いて反復横断研究を行ったものである。一般化線形モデルにてスタチン服用者群及び非服用者群の調査サイクル毎の摂取カロリー量及び脂肪摂取量、**Body mass index (BMI)**、血中総コレステロール値、LDL-C 値を予測し、下記の結果を得ている。

1. 1999-2000 年にはスタチン服用者は非服用者に比してカロリー及び脂肪摂取量が **196 kcal/day** 少なかった。その後スタチン服用者のカロリー及び脂肪の摂取量が増加し、服用者と非服用者の差が消失した。交互作用項の検定により、スタチン服用者と非服用者の観察期間のトレンドは有意に異なるという結果になった。
2. 1999-2000 年と 2009-2010 年を各群内で比較すると、スタチン服用者ではカロリー及び脂肪の摂取量はそれぞれ **9.8%**と **14.7%**の増加を認めたと、非服用者では有意な変化を認めなかった。
3. BMI はスタチン服用者で観察期間内に **1.3 kg/m<sup>2</sup>** 増加したのに対し、非服用者では **0.5kg/m<sup>2</sup>** の増加にとどまった。

これらの結果から、スタチン服用継続者が食事療法を遵守しなくなってきた可能性と、食事療法を遵守しない人が新規に内服を開始した可能性が示唆され、最近のスタチン服用者に対する食事療法の指導を強める必要があることが考えられた。また、今回観察された生活習慣を改善せずにスタチンを服用することが、費用対効果および倫理的な面を考えた上で社会的に容認できるかどうかを、純粋な効能に関する検証と並行して議論する必要があると論じた。

本研究は、これまで示されていなかった薬物療法の有無によって異なる食事摂取量の推移について明らかにし、脂質異常症診療の発展に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。